

科 目	週 時 数
論理国語	2 時間

目 標	実社会において必要となる、文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を養う。	
	知識 技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
	思考 判断 表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「人はなぜ贈与するのか」 「記号的メディアと物理的メディア」 「ポスト真実時代のジャーナリズムの役割」 「猫は公開するのか」	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し、自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかるとともに、様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。
2 学 期	「政治を支える心構え」 「日常に走る亀裂」 「リスク社会としての現代」 「日本文化の三つの時間」	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し、自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかるとともに、様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
主たる教材	『論理国語』(大修館書店)
副教材	『改訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 ことのは』『論理力ワークノート』等
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
文学国語	2 時間

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
育 っ た い 力	知識 技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	思考 判断 表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	【随想・評論】「桜の中で、時が重なり合う」 【小説】「鍋セット」 【小説】「掟の門」 【随想・評論】「陰翳礼讃」	・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学 期	【小説】「檸檬」 【小説】「冥途」 【随想・評論】「物語る声を求めて」 【随想】「『遊び』の伝統」	・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
教科書	『文学国語』(大修館書店)
副教材	『改訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 ことのは』『論理力ワークノート』等
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率80%を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	学習に必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
古典探究	2 時間

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を以下のとおり育成することを目指す。	
	知識 技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	思考 判断 表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典の文章を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【古文／説話】『古今著聞集』『今昔物語集』 【漢文／故事・逸話】「水魚の交はり」 【古文／随筆】『枕草子』 【漢文／史伝】『史記』列伝	・古文並びに漢文の様々な文章を読み、日本語としての言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。
2 学期	【古文／物語】『大鏡』 【漢文／文章】「師説」 【古文／日記・物語】『蜻蛉日記』『源氏物語』 【漢文／思想】『論語』『老子』『韓非子』	・古文の文学的な文章や漢文の諸子百家の思想に触れ、日本語としての言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
教科書	『古典探究古文編』『古典探究漢文編』(大修館書店)
副教材	『古典探究 学習ノート[古文編]』『古典探究 学習ノート[漢文編]』(大修館書店)『ダブルマスター 古典文法+漢文句形』(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、課題提出、テーマに沿ったプレゼンテーション等を適宜実施

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全解答する
	②小テスト	指定された範囲の復習を確実に行って、全テストの得点率70%以上を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	学習に必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習のポイントの内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習のポイントの問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
国語探究G(設定)	2 時間

目 標	大学での研究活動に耐えうる、基本的な言語技能を習得する。	
	知識 技能	社会全般に対する広い視野と、自身の興味関心に基づいた専門的な知識、考察をバランスよく持てるようにする。加えて、探究するために必要な情報検索能力を身につける。
	思考 判断 表現	論理的な思考力、適切な引用能力、時と場に応じた言語活用能力を身につける。
	主体性 協働性 多様性	個人で、または他者と相談し協力しながら学びを進め、効果的なプレゼンテーションを実現できるようにする。また、他のプレゼンテーションから良い点を学び、自分の発表に有機的に取り入れられるようにする。

時期	学 習 内 容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文における、表現及び表記上の注意事項の確認(前年度までの既習事項の復習も含む) 要約文並びに小論文演習 面接並びにプレゼンテーション体験 	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文の基本的な書き方を学ぶ。 面接のマナーを学ぶ。 効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文完成 面接演習 プレゼンテーション演習(学内での発表) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題文における筆者の主張のポイントを的確に読み取り、それを踏まえた要約文を完成させる。また、読み手にその内容を十分に理解してもらえるような論理展開を意識して小論文を書く。 好ましい面接態度を研究し、実践する。 効果的なプレゼンテーションを実践する。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	「小論文チャレンジノート」(第一学習社) 「現代文100字要約ドリル」(駿台文庫)
副教材	特になし
評価の方法	定期試験、教材中の課題の提出(要約文や小論文の作成)、プレゼンテーションの内容等による総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習の復習を確実に行って、全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	授業や諸活動に必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	授業を聞く姿勢を整え、互いの学力向上のために仲間と協力しながら、主体的に授業中の諸活動に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	主たる教材の提出課題やプレゼン資料において、効果的な工夫がされており、進歩が見られる
	60%	主たる教材の課題やプレゼン資料等を決められた条件のもとに完成させる

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
日本史探究	3 時間

目標	我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養う。また、我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。	
	知識技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
	思考判断表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3編 近世の日本と世界 第5章 統一政権の成立 第6章 幕藩体制の展開 第4編 近現代の地域・日本と世界 第7章 大日本帝国の形成	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の展開から動揺、滅亡にいたるまでの流れを考察すると同時に、民衆の動きにも着目する。 維新期の近代化について、諸改革の内容を理解するとともに、立憲体制の確立に努めた国内外の情勢にも着目する。 主題を設定し、国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。 時代の特色について、多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現させる。
2 学期	第4編 近現代の地域・日本と世界 第8章 大日本帝国とデモクラシー 第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦 第10章 現代日本社会の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> 二度の世界大戦へと進む状況を理解する。 戦後占領期の民主化政策と独立回復の動きを考える。 独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の復興を世界的な視野から理解する。 経済大国として成長する日本の様子と、冷戦終結以降の新しい情勢のもとで流動する現代の情勢を分析する。 演習を通して履修範囲の理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
主たる教材	『精選日本史探究』(実教出版)
副教材	『精選日本史探究 演習ノート』(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	單元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
世界史探究	3 時間

目 標	地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。	
	知識技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。
2 学期	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究	・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現させる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習、ペア学習、ICTを活用した学習
教科書	『世界史探究』(実教出版社)
副教材	『世界史探究 マイノート』(実教出版社)、『アカデミア世界史』(浜島書店)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、発表、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的な事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
政治・経済	3 時間

目標	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	
	知識技能	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べられる。
	思考判断表現	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断することができる。
	主体性協働性多様性	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、より積極的な役割を果たすことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 第2節 日本国憲法と基本的人権 第3節 日本の政治機構 第4節 政治参加と民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 民主政治の本質の理解を基に、世界の主な政治体制と関連させながら、現代政治の在り方について多面的・多角的に考察し、表現している。
	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。
2 学期	第2章 現代の経済 第2節 現代経済のしくみ 第3節 日本経済と福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。
	第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 第2節 国際経済の動向 第3節 国際社会の課題と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『政治・経済』(数研出版)
副教材	政治・経済整理ノート(数研)、ズームアップ公共資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書と社会的事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
数学Ⅱ	2 時間

目標	三角関数、指数・対数関数、微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度および応用力を養成する。	
	知識技能	数学的活動を通して、三角関数、指数・対数関数、微分と積分における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、三角関数、指数・対数関数、微分と積分における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見いだし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○三角関数	○角の概念を一般角まで拡張し、弧度法を導入する。単位円を利用して、三角関数の基本的な性質の理解を深め、三角関数のグラフを理解し、方程式・不等式が解ける。 ○三角関数の加法定理について理解し、活用できる。 ○指数を実数の範囲まで拡張できることを理解し、活用できる。 ○指数関数のグラフを理解し、その方程式・不等式が解ける。
	○指数関数・対数関数	
2 学期	○指数関数・対数関数	○対数の存在を理解し、その基本性質が理解できる。 ○対数関数のグラフを理解し、その方程式・不等式が解ける。 ○微分係数、導関数の定義・意味を理解し、計算・活用できる。 ○導関数を用いて、関数の増減および極大・極小を調べ、グラフが描ける。 ○不定積分・定積分について理解できる。 ○定積分によって平面図形の面積が計算できる。
	○微分と積分	

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学Ⅱ Standard』(東書 数Ⅱ702)
副教材	WIDE 数学Ⅱ (東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の問題の完全理解
	60%	教科書の定義・定理・例・例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
育 っ た い 力	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。	
	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法／仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Unit 8 Is there anything money can't buy? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication Ⅲ (東京書籍)
副教材	スタディサプリENGLISH4技能コース(リクルート)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
英語探究Gb	3 時間

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
	知識技能	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。
	思考判断表現	1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で答えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Lesson 1 A City Worth Visiting Lesson 2 Our Hometowns Lesson 3 What Makes a City Attractive? Lesson 4 How Do You Spend Your Time? Lesson 5 Trying Something New Lesson 6 The Art of Translation	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 受動態・動詞・助動詞・形容詞／副詞・比較
2 学期	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Future Energy Sources Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 関係詞・不定詞・動名詞・分詞

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	be CLEAR English Logic and Expression III (いいずな書店)
副教材	スタディサプリENGLISH4技能コース(リクルート)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史性、普遍性、倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い、ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に、その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ た い 力	知識技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考判断表現	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性協働性多様性	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学 期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

授業の形態	個人の探究活動 ワークショップ
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
3L希望学Ⅱ	1 時間

目 標	地域社会で課題解決に取り組む方の実践を学ぶことを通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、地域社会における自らの使命を考える。	
育 っ たい 力	知識 技能	地域課題の解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	持続可能な地域社会づくりのためには何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「地域課題探究」	東北学院大学地域連携センターとの連携事業として、仙台市荒町地区・連坊地区をはじめとした地域でボランティア活動を行うことを通して、地域の課題について理解し、課題解決の方法について理解を深める。
2 学期	「地域課題探究」	東日本大震災で被災した沿岸部の復興に取り組む方とボランティア活動を行うことを通して、地域の課題について理解し、課題解決の方法について理解を深める。 マイナビのlocusを用いて、企業の繋がり(サプライチェーン)やイノベーションの事例など企業の取組事例をヒントに、地域や社会の課題解決を考え、生きる力を身に付ける。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 現地での活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
プレカレッジ	PC① 2 PC② 1 計 3 時間

目 標	東北学院大学と連携して、東北学院大学の模擬講義の受講を通して多様な視点から大学教員の指導を受けることで、思い込みにとらわれない適切な進路選択を可能にし、また将来に生きる幅広い知識の獲得を目指す。 また現代の情報基盤社会についての基礎的な知識の習得を通して、情報化に適応し、積極的に参画するための能力を育成する。	
育 っ た い 力	知識 技能	各学部学科の学びの特徴を理解することができる。 自分自身の興味関心と大学での学びの結びつきを明確に理解することができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。
	思考 判断 表現	自らの進路選択について深く考え、適切に判断できる。 大学での学びに求められる手法を身につけ、適切に表現することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえ、論理的に情報を取捨選択し、適切に情報を受発信することができる。
	主体性 協働性 多様性	高大連携の意義を理解し、明確な進学意識をもって授業に臨むことができる。 大学での深い学びに対して、協働して取り組むための準備ができている。情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	「東北学院大学訪問」 「PC②」 ・情報と情報基盤社会について ・情報機器の構造	東北学院大学を訪問して希望する学部の模擬講義を受講し、学部学科の学びについて理解を深め、各学部学科の専門教育の内容にも触れることで、自らの進路決定の一助とする。 現在の情報通信環境がどのように形成されたのかを理解する
2 学 期	「東北学院大学準備講座」 「PC②」 ・情報通信ネットワークについての基礎知識 ・情報セキュリティについて	希望進路と学びたい学問分野の結びつきを明確にし、東北学院大学の希望学部・学科と希望進路の結びつきの整合性を確認する。 東北学院大学の希望学部・学科の志望理由を文書で説得的に表現する。 情報通信ネットワークを適切に活用する能力を身につけ、情報基盤社会における危機管理能力と情報モラルを習得する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 PC一人1台環境による講義形式の授業
主たる教材	自主教材 コンピュータ概論 情報システム入門
副教材	なし
評価の方法	レポート等、定期試験と実習課題による
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする